

量が現公定法の検出限界（1mg/kg）以下になることが確認された。

このことから、カズノコに対する有意で確実な殺菌効果を得るためには、亜塩素酸ナトリウムは500ppm（0.5g/kg）程度必要であり、またこの条件においても最終食品の完成前に分解又は除去しなければならないという使用制限を十分に達成できることから、カズノコにおける亜塩素酸ナトリウムの使用基準は生食用野菜類、卵類（卵殻の部分に限る）と同様に、殺菌料として浸漬液1kgに対し0.5g以下と設定されることが適当である。

従って、使用基準案は下記の通りとされたい。

<使用基準案>

「亜塩素酸ナトリウムは、かんきつ類果皮（菓子製造に用いるものに限る。）、さくらんぼ、生食用野菜類、卵類（卵殻の部分に限る。以下この目において同じ。）、ふき、ぶどう、もも及びカズノコ（調味加工品に限る。以下この目において同じ。）以外の食品に使用してはならない。

亜塩素酸ナトリウムの使用量は、亜塩素酸ナトリウムとして、生食用野菜、卵類及びカズノコにあっては浸漬液1kgにつき0.50g以下でなければならない。また、使用した亜塩素酸ナトリウムは、最終食品の完成前に分解し、又は除去しなければならない。」

<添付資料>

資料1…「各国の認可状況（塩素系殺菌料）」、(財)日本食品添加物協会「食品添加物マニュアル(2003年版)」より作成

資料2…「米国、JECFAの二酸化塩素系殺菌料の認可状況」、Food and Drug Administration、Code of Federal Regulations (FDA21CFR § 173.300、FDA21CFR § 173.325、FDA21CFR § 186.1750、FDA21CFR § 172.892)並びに Joint FAO/WHO Expert Committee on Food Additives (JECFA)、Summary of Evaluations より引用・作成

資料2-1…FDA 21CFR173.325 (仮和訳) (財)三栄源食品科学振興財団資料より抜粋

資料2-2…21CFR172.892 より抜粋 同上

資料2-3…21CFR173.300 より抜粋 同上

資料3…「輸入カズノコ原卵に関する試験」、北海道立中央水産試験場加工利用部作成

資料4…「カズノコにおける残存亜塩素酸ナトリウムの消長試験」、(株)山田水産研究所作成

資料5…「ダイオネクス プロダクト ガイド」日本ダイオネクス株式会社 資料

資料6…「ダイオネクス アプリケーション レポート」日本ダイオネクス株式会社 資料

資料7…「味付カズノコのアニサキス除去に関する試験」、(株)山田水産研究所作成

資料8…「カズノコにおける残存亜塩素酸ナトリウムの消長試験(2)」、(株)山田水産研究所作成

<引用文献>

- (1) 細井正春 他「食中毒起因細菌に対する亜塩素酸ナトリウムの発育阻止効果」食衛誌、vol. 31、No. 6 p. 469-473 (1990)
- (2) 長谷川ゆかり 他「細菌及び酵母に対する亜塩素酸ナトリウムの抗菌作用」食衛誌、vol. 30、No. 3 p. 240-249 (1989)

- (3) 小林正枝 他「亜塩素酸ナトリウムの殺菌効力に関する検討」食衛誌、vol. 31、No. 6 p. 491-498 (1990)
- (4) 長谷川ゆかり 他「生鮮魚類及び野菜に対する亜塩素酸ナトリウムと次亜塩素酸ナトリウムの鮮度保持効果の比較」食衛誌、vol. 31、No. 3 p. 261-265 (1990)
- (5) 酒見和枝 他「亜塩素酸ナトリウムのラットを用いた経口投与による催奇形性試験」、国立医薬品食品衛生研究所報告、1999(117)、99-103
- (6) Harrington RM 他「Developmental toxicity of sodium chlorite in the rabbit」、J Am Coll Toxicol 1995;14(2):108-118
- (7) Anisakis simplex and related worms , Foodborne Pathogenic Microorganisms and Natural Toxins Handbook, Center for Food Safety & Applied Nutrition, U.S. Food & Drug Administration
- (8) 山田稔・井原慶児・梶下貞昭・高間浩蔵、「カズノコの製造と実際」、p. 48-54、(株) 山田水産研究所、1992
- (9) 錦織孝史・大堀忠志、「酵素処理による魚卵卵のう膜の除去試験」、p. 278-282、平成2年度 釧路水産試験場事業報告書、1990